令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　港区

学 校 名　市岡小学校

学校長名　松下　宣幸

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和６年４月18日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・　　学校では、第６学年　　６３ 名

学校名　市岡小学校

令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率について、国語科では、大阪市平均と１３ポイント、全国平均と１４．７ポイント下回った。算数科では、大阪市平均と７ポイント、全国平均と８．４ポイント下回った。内容別では、国語科では６項目中、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する項目」「書くこと」の４つにおいて大阪市平均及び全国平均を１０ポイント以上下回っていた。算数科では４項目中、すべてにおいて１０ポイント以下ではあったが大阪市平均・全国平均を下回っていた。

また平均無回答率について、国語科では全国平均を下回り、算数科では大阪市平均及び全国平均を下回る結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］

平均正答率が１４問中７．５問で、特に１～７問の割合が全国平均を上回る結果となっていた。特に記述式の問題については、正答率が低く、無回答率が高かった。また評価の観点別では、知識・技能の項目において、他の結果と比べて大きく下回っていた。

［算数］

平均正答率が１６問中８．８問で、特に１～８問の割合が全国平均と同等程度か上回る結果となっていた。また評価の観点別では、思考・判断・表現が正答率が低く無回答率が高い傾向があり、知識・技能が正答率が高く、無回答率が低い傾向にあった。

質問調査より

基本的な生活習慣（朝食摂取、就寝・起床時間等）については、他の結果と同等以上であったが、スマートフォン等の使用時間は他の結果と比べて長時間の使用となっていた。

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」については、最も肯定的な回答をした児童の割合が72.4%で、他の結果を下回っていた。また「学校に行くのは楽しいですか」については、肯定的な回答をした児童の割合が89.6%で他の結果より低かったが、「友達関係に満足していますか」については、肯定的な回答をした児童の割合が94.9%で、他の結果より高かった。

「学級の友達との間で話し合う活動と通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」については、最も肯定的な回答をした児童の割合が39.7%で、他の結果と同等程度だった。

今後の取組(アクションプラン)

国語科・算数科ともに基礎的な学習事項である漢字の読み書きや四則計算の定着に課題があり、特に理解度が３割以下の低位層に顕著に表れていた。そこでブロック化予算による漢字検定の実施に加え、校内漢字検定を定期的に実施するとともに、１００マス計算のような短時間で実施できる活動を朝の時間や午後の授業前に週に１回以上実施することで、基礎学力の向上を図る。

また今年度より実施を再開し始めている異学年交流や地域交流をさらに積極的に取り入れ、児童が同学年以外の人とより多く触れ合うことで、自尊感情や自他を尊重する意識の向上を図っていく。